

第1学年*組 美術科学習指導案

指導者 長峯寺 由香里

1 題材名 変身！○○○な私！～お面制作～

2 題材の目標

○自分の内面や理想などをお面で表現することに关心をもち、主体的に表現しようとする。

(美術への关心・意欲・態度)

○自分の内面や理想などを基に主題を生み出し、お面の表現の構想を練ることができる。

(発想や構想の能力)

○材料や道具の特性を生かし、表したいお面のイメージをもちながら、創意工夫して表現することができる。

(創造的な技能)

○作品についての造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうことができる。

(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

お面は、様々な国の文化の特徴を捉え、数多くの種類が見られる。そして、様々な儀式や祭礼、演劇などで使用されており、演者が役になりきるために使われることが多い。日本でも、祭りや能などで、伝統的にお面が使用されたり、玩具として売られたりしているため、生徒にとってもなじみが深い物である。また、変身願望を満たすことができるお面を制作することは、自己の内面を深く見つめ始めるこの時期の生徒にとって、興味・关心を高めることができると考える。更に、材料とする粘土は可塑性があり、何度もつくり直すことが可能であるため、自分の思いや考えを表現しやすいと考える。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、美術の授業において、素直に教師の話を聞き、落ち着いて活動に取り組んでいる。しかし、発想や構想の場面では、表現のアイデアが浮かばずに意欲が低下したり、すぐに教師にアドバイスを求めたりする姿も見られる。表現に関するアンケートでも、美術の授業で苦手なことは、アイデアスケッチと回答する生徒が学級の半数近くいる。このことから、発想や構想の段階で、表現のイメージをふくらませながら、主体的に活動できるような手立てを講じる必要があると考える。

(3) 指導観

本題材では、生徒の実態を踏まえ、まず、発想や構想の場面に、思考ツールを活用してお面の鑑賞をしたり自己の内面を見つめたりする活動を取り入れる。導入のお面の鑑賞では、黒板に座標軸を示し、感情の「喜怒哀楽」を位置付け、お面の表情から読み取れる感情を分類する。このことで、生徒は様々な感情の表現について学ぶことができると考える。次に、イメージマップを活用して、自己の内面と向き合うことができるようになり、理想の自分の顔（お面）につなげていく。さらに、考えたことを基に、生徒同士で話し合い、互いにアドバイスをする時間を取り入れることで、表現のアイデアが浮かぶようにしたい。

4 題材の評価規準

美術への关心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・自分の内面や理想などをお面で表現することに关心をもち、主体的に表現しようとしている。	・自分の内面や理想などを基に主題を生み出し、お面の表現の構想を練っている。	・材料や道具の特性を生かし、表したいお面のイメージをもちながら、創意工夫して表現している。	・作品についての造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。

5 指導と評価の計画（9時間扱い）

次 時	学習活動	評価の観点				学習活動に即した評価規準 () は評価方法	
		関	発	技	鑑		
1	① ② ③	・お面について知る。 ・様々なお面の表情を読み取り、「喜怒哀楽」の分類をする。 ・イメージマップを活用して自分の内面を書き出し、そこから理想の顔を考える。	○			・お面の鑑賞や自分のイメージを表すことに関心をもち、主体的に表現しようとしている。 (観察、ワークシート)	
		・お面のアイデアスケッチをする。 ・少人数グループになり、イメージマップやアイデアスケッチを見せ合って、アドバイスをし合う。		○		・自分の内面や理想などを基に主題を生み出し、お面の表現の構想を練っている。 (観察、ワークシート)	
2	4 5 6 7 8	・アイデアスケッチを基にして、芯材に粘土をつける。 ・彩色をする。 ・仕上げのニスをぬる。	○			・自分の内面や理想などをお面で表現することに関心をもち、主体的に表現しようとしている。 (観察、ワークシート)	
3	9	・作品鑑賞会をする。			○	・材料や道具の特性を生かし、表したいお面のイメージをもちながら、創意工夫して表現している。 (観察、作品、ワークシート)	
						・作品についての造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。 (観察、ワークシート)	

6 本時の学習

(1) 目標

自分の内面や理想などを基に主題を生み出し、お面の表現の構想を練ることができる。

(2) 準備・資料

お面参考作品、お面の資料・写真、ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点、◎評価
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分の内面や理想の姿を踏まえて、お面のデザインを考えよう</div>	・前時の学習を確認し、アイデアスケッチの参考にするよう言葉かけをする。
2 お面のアイデアスケッチをする。 (1) 前時に書いたイメージマップや自分の理想像から主題を生み出し、お面のデザインを考える。 ・明るく楽しい人になりたいので、笑顔いっぱいで暖色系の色をした仮面にしたい。 ・意志が強い人が理想なので、気持ちの強さを目や口の形で表したい。	・一つのアイデアスケッチにこだわらず、短時間で数種類のスケッチをつくるように言葉かけをする。 ・〔共通事項〕の視点を踏まえ、形や色彩の性質や特徴を生かしてアイデアスケッチができるように支援する。 ・半立体の作品になるため、正面のアイデアスケッチだけでは分かりづらい場合には、横面のスケッチも描くように指示する。

	<ul style="list-style-type: none"> 将来は画家になりたいので、画家のよ うなお面にしたい。 バスケットボールが好きなので、顔の 形をバスケットのボールにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がなりたい職業や、好きなものを基本にし て顔をつくってもよいが、主題とする表情が大 切であることを伝えるようにする。
③	少人数グループになり、アイデアスケッ チを見せ合いながら互いにアドバイスをす る。	◎自分の内面や理想などを基に主題を生み出し, お面の表現の構想を練っている。 (観察、ワークシート)
④	自分の思いや考えなどをワークシートに まとめながら、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチが進まない生徒を見取り、対 話を通して、イメージがふくらむように支援す る。 話し合うことにより、自分の考えを整理した り、友人のアドバイスから新たな視点が得られ るようすることを呼びかける。 机間指導をして、話合いに参加することに消極 的な生徒を見取り、状況に応じた支援を行 う。 本時の学習で考えたことや、友人とアイデアに ついて話し合ったことで気付いたことなどをま とめるように伝える。
⑤	次時の学習の説明をする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動でよかった点について称賛し、次時 の学習への期待をもたせることで、創作意欲を 高める。